学校番号	３１３

令和３年度　美術科

教科	芸術	科目	美術Ⅰ	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	「高校美術１」　（日本文教出版）						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・自らの手作業を通して創造の素晴らしさを学ぶ「彫刻・立体」。自らのイメージを色彩と構図によって表現する「絵画」。伝達手段としての表現方法を模索する「平面デザイン」。この３つを学習の柱として授業を進めていきます。
・作品の完成度だけで無く、制作に取り組む姿勢を重視します。
・他者の作品を鑑賞することで、より表現の幅を広げ、また創作活動の難しさと素晴らしさを知ることで、創造力を豊かな人間性を育んで貰えたらと考えています。

2　学習の到達目標

美術の創作活動を通して、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、芸術活動全般についての理解を深める。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:美術への関心・意欲・態度	b:発想や構想の能力	C：創造的な技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	美術の創造的活動の喜びを味わい、多様な表現方法に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。	参考作品から感性や創造力を働かせ、その美しさや機能性を感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	創造的な表現をするために、各種用具の適切な使用方法を学び、表現の手段としての技能を身に付けている。	身の回りにある美術作品の表現の工夫や美術文化等を理解し、その美しさや機能を創造的に味わっている。
評価方法	作業の態度 ワークシート 作品	作業の態度 ワークシート 作品	作業の態度 作品	鑑賞レポート

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	題材名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期	紙の立体	［立体］ ・液晶プロジェクターによる課題説明。 一枚のケント紙から１個の立方体を作成し、残ったケント紙を有効に使い、その立方体に接着することで自ら設定したテーマに沿って立体作品を制作する。 自作の展示台に固定する。	○	○			a:一枚の紙（二次元）に手を加えることで三次元の作品に変化することを再認識し、造形の可能性を模索している。 b:色彩を用いずに、形態のみで個々のテーマに沿った独創性のある立体を制作している。	作業状況の観察 提出作品
	ねじれた五角錘	［彫刻］ ・液晶プロジェクターによる課題説明。 石膏の粉末を水に溶かし、型に入れ固める。 取り出した石膏の塊から、予め設定されたテーマ「ねじれた五角錐」に沿って石膏を彫刻刀で削り出す。 耐水ペーパーで表面を研磨。	○	○			a:粉末を水と攪拌する事で作品の素材を自ら作成することへの興味・関心。 b:色彩を用いず石膏の質感だけで自らのイメージを表現しようとしている。 立体としてのバランスを考慮し、あらゆる角度からの鑑賞に堪える表現を追及しようとしている。	作業状況の観察 提出作品
	タイル文字	［デザイン］ ・液晶プロジェクターによる課題説明。 任意の漢字１文字をタイルに転写し、任意の画面分割を施し、サンドブラスト技法を用いてタイルに文字を彫り込む。 水彩絵の具で彩色する。	○	○	○		a:漢字の持つ意味を理解し、彩色することでより明確化しようとしている。 b:任意の漢字一文字を設定しその文字の持つ意味合いを、画面分割と色彩計画により表現しようとしている。 c:ペン型カッターナイフをその用途に応じて的確に使用するための技術の習得。	作業状況の観察 ワークシート 提出作品
	額縁制作	［立体・絵画］ ・液晶プロジェクターによる課題説明。 発泡スチロールと和紙をベニヤ板に接着し、タイルを展示するための額縁を制作する。 水彩絵の具で彩色する。	○	○			a:タイルに彫られた漢字の持つ意味をより強調する色彩と図案を追及しようとしている。 b:タイル画の文字と色彩を考慮し、独創性を追及しようとしている。	作業状況の観察 提出作品
	作品展の鑑賞	［鑑賞］ ・「大阪府高等学校美術・工芸展」の鑑賞。 ・「ゆうかり展（八尾高校美術部OB,OG作品展）」の鑑賞。	○ ○			○ ○	a:他者の作品を鑑賞することで制作のモチベーションに繋げようとする態度。 d:他者の作品から表現の多様性や工夫を感じ取ろうとする態度。	レポート

後期	コップの装飾	［デザイン・絵画］ ・液晶プロジェクターによる課題説明。 ガラスコップに任意の漢字４～５文字をコップに転写し、幾何学模様と組み合わせサンドブラスト技法を用いてコップに文字を彫り込む。 水彩絵の具で彩色する。		○	○		b:任意の漢字一文字を設定しその文字の持つ意味合いを、画面分割と色彩計画により表現しようとしている。 c:ペン型カッターナイフをその用途に応じて的確に使用するための技術の習得。	作業状況の観察 提出作品
	だまし絵	［絵画］ ・液晶プロジェクターによる課題説明。 既成の写真の一部分に紙を貼り、水彩絵の具を使用し細密に隠蔽部を描写することで、写真と同化することを目標に作画する。	○		○		a:基になる写真の色彩を細かく観察し、絵の具の混色で再現しようとしている。 c:参考作品を細かく観察し、その表現方法や技術を習得しようとしている。	作業状況の観察 提出作品
	にっぽん	［デザイン］ ・液晶プロジェクターによる課題説明。 日の丸の図案を基にし、自らのイメージに基づき「にっぽん」を表現する。一部分に印刷物・写真等を添付し、水彩絵の具を使用し、自分にとっての「にっぽん」とは何か？を表現する。	○	○			a:自らのイメージを色彩と画面構成により表現しようとしている。 b:テーマを基に創造力や感性を働かせ、独自の発想を追及し、作品の完成度を高めようとしている。	作業状況の観察 ワークシート 提出作品
	作品展の鑑賞	［鑑賞］ ・「第 39 回中央ブロック高校美術・工芸展」の鑑賞	○			○	a:他者の作品を鑑賞することで制作のモチベーションに繋げようとしている。 d:他者の作品から表現の多様性や工夫を感じ取ろうとしている。	レポート

※　表中の観点について　a:美術への関心・意欲・態度　b:発想や構想の能力
c:創造的な技能　d:鑑賞の能力

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。